7 Mana PlaS®

ネットワークとセキュリティを統合サポートする「Mana PlaS®」
～お客様のZTNA/SASEの実現もサポート～

2019年4月から株式会社NTTデータ（以下、NTTデータ）は、ITインフラ運用における様々な情報を管理し、業務を効率化・自動化するクラウドサービス「Mana PlaS Dashboard®」を提供している。本稿では、同サービスの特徴や目指す姿、導入のメリット及び新たに追加されたセキュリティ機能等について紹介する。

インフラ管理のベストプラクティスを一元的に提供

少子高齢化による労働力人口減少や、増加し続けるIoTデバイス管理等のために、企業はITインフラ管理の効率化を模索している。その一方で2019年7月、経済産業省はあらゆる企業がデジタル化に対応するようDX推進指標を策定。今後企業のDX化進捗度を点数化し、DXへの取り組みを義務付ける方針を打ち出した。これを受け、企業はDXの取り組み状況を可視化し、具体的対策を講じる必要にも迫られている。さらに爆発的に増加するデータの活用方法の欠如、短期的観点でのシステム開発による運用保守費の高騰、業務基盤維持の困難、サイバーセキュリティやデータ滅失・流出等リスクの高まり等、企業にとってITシステムにおける問題は山積している。

こうした背景の下、NTTデータのMana PlaS Dashboardは企業のインフラ管理の課題解決に向けて、ベストプラクティスを正確かつ迅速に情報共有可能な1つのポータルサイトでサポートする。

現在Mana PlaS Dashboardは、①構成管理、②故障管理（大規模故障管理）、③作業日程管理、といったサービスをサポートしているが、さらにオーダー・問い合わせ管理のサービス化を検討している他、予知検討等プロアクティブな各種機能も実装する予定だ。

株式会社NTTデータ
コンサルティング&ソリューション事業本部
ネットワークソリューション事業部
（左）課長　松原 誠慈氏
（右）課長　末永 哲也氏

企業のインフラ管理の負担軽減と最適化を実現

企業のITインフラの現状例とMana PlaS Dashboard導入によるメリットは図1のようにまとめられる。Mana PlaS Dashboardにより、分散する台帳管理や属人化している情報を一元管理することで、正確な情報を担保できる。また、故障時にあっても、多段での情報連携フロー

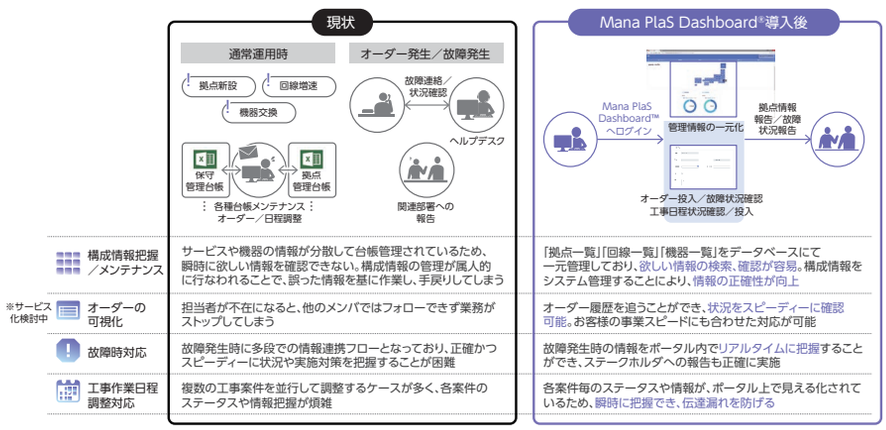

図1　Mana PlaS Dashboard導入によるメリット

をリアルタイムに把握することでステークホルダへの報告を正確に実施できる。例えば、自然災害等により企業の複数拠点で故障が発生し情報が錯綜しかねない非常事態にあっても、故障の影響拠点を一覧化することで、非影響の人員を派遣しフォローを行ったり、関係者にアナウンスをしたり、といったアクションを迅速に行うことができる。

さらに、複数の工事案件の調整を実施するような場合、案件ごとのステータス等をポータル上で把握できるため、伝達漏れを防止できる。サービスを検討中のオーダー・問合せ管理についても、担当者不在時に業務をストップすることなくオーダー履歴を追うことで誰もが状況をスピーディーに確認し対応できるといったメリットが期待できる。

運用業務にかかる稼働削減からインフラ領域のエコシステムの実現を目指して

Mana PlaS は、二つの目指す姿を描いている。

まず、第一の目指す姿は、キャリアやクラウド、各業界の顧客データやオープンデータ、そしてベンダ情報やセキュリティデータといった外部サービスと、多様なお客様から得られる情報をクラウドに蓄積し、そこからデータオリエンテッドアプローチを経て新たな価値を創出しようとするものだ（図2）。「Mana PlaS Dashboard の特長の一つに、NTT グループのソリューションでありながら他社のキャリアも使用できる、つまりマルチキャリアで導入可能という点があります。元々はお客様に寄り添うことを重視した考えに基づくものでしたが、キャリアに限らずベンダも含め様々な外部サービスと連動することで新技術・サービスの早期取り込みが可能となります。そして法人・金融・公共等多様なお客様に導入し、運用データを Mana PlaS に蓄積することで、サービスの継続的な拡張と具体的データに基づく改善を実現していきたいと考えます」（松原氏）。

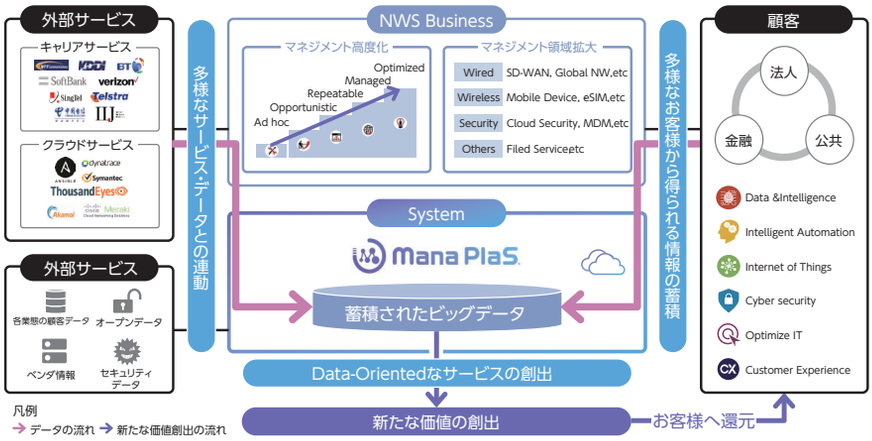

図 2　Mana PlaS の目指す姿

次に、第二の目指す姿は、複数のお客様のネットワーク（以下、NW）、マスタデータ／トランザクションデータ／構成変更といったデータを収集・分析し、お客様ごとに人が介在しない故障対応、お客様の利用状況に合わせたインフラの最適化、お客様資産全体を最新かつあるべき状態で自動管理する、というものだ。「複数のお客様の業種、利用用途、導入回線・機器、故障率、構成、復旧時間等のデータを統計し、デジタル化された情報を活用することで、より客観的な目線でお客様にとっての最適なインフラ環境をご提案したいと思います」（末永氏）。

新たに ZTNA や SASE 実現をサポートする機能を追加

以上 NW に関する機能について紹介してきたが、2021 年 7 月から Mana PlaS Dashboard は ZTNA（Zero Trust Network Access）や SASE（Secure Access Service Edge）にも注力している。一般に、インフラの不具合が発生した場合、NW に関することは NOC（Network Operations Center）、セキュリティに関することは SOC（Security Operation Center）と問い合わせ窓口は異なる。そのため問い合わせ窓口を特定すること等に時間を割かれ、不具合の解消に時間を要する場合が多く見受けられる。しかし、Mana PlaS Dashboard は不具合の箇所が NW であれセキュリティであれ、人が判断する必要はなく Dashboard 上で検索し状況を確認することが可能。課題把握から要件確認実装計画・実装・運用までを、構築実績・経験・ノウハウを持った NTT データメンバが強力にサポートし、NOC、SOC を一元的に担う。

コロナ禍でチーム内での情報連携が難しくなっている今日、ダッシュボード上で一元的に情報が共有できる Mana PlaS Dashboard に寄せられる期待はますます高まっている。Mana PlaS Dashboard は今後も機能の拡充を図っていく。